ISSN 0389-5610

NEUROTRAUMATOLOGY

神経外傷 Vol.33 別冊 2010

日本頭部外傷データバンク
業績目録

一般社団法人 日本脳神経外傷学会機関誌
Official Journal of The Japan Society of Neurotraumatology

神経外傷／第33巻／別冊

日本頭部外傷データバンク
業績目録

日本頭部外傷データバンク検討委員会
【日本脳神経外傷学会】

平成22年12月作成

神経外傷（日本脳神経外傷学会機関誌）
Neurotraumatology (Official Journal of The Japan Society of Neurotraumatology)
Vol.33 ／別冊／ 2010
2010年12月27日 発行（定価3,000円＋税）

発 行：一般社団法人 日本脳神経外傷学会事務局
東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
TEL: 03-3433-1111（内線3460）FAX: 03-3459-6412

COPYRIGHT © 2010 by The Japan Society of Neurotraumatology

目　次

日本頭部外傷データバンク
業績目録

わが国における“重症頭部外傷データバンク”は
どのように出来上がったのであろう？　中村　紀夫……1

日本頭部外傷データバンクの誕生と発展　山浦　晶……3

業績目録の発刊に寄せて　重森　稔……5

日本頭部外傷データバンクの歩み……7

学会発表・論文発表の推移……8

学会発表……9

論　文……37

頭部外傷データバンク委員会の構成およびメンバー……47

編集後記……50

わが国における“重症頭部外傷データバンク”はどのように出来上がったのであろう？

中村　紀夫
東京慈恵会医科大学　名誉教授

わが国において“頭部外傷データバンク”という概念の発展とその具体的設定とは？　第二次世界大戦終結のあと，わが国で交通事故による頭部外傷が激増したにもかかわらず，50年以上もデータバンクが具体化しなかったのはどうして？

私が大学を卒業したのは20世紀のほぼ真ん中1952年であった。それはわが国において脳神経外科が初めて公式に認められた翌年で，1年間の卒後研修を経た上で早速，東京大学第一外科・脳神経外科に入局したところ，故 清水健太郎教授から，「お前は頭部外傷を研究せよ」と命ぜられた。

終戦後まだ日が浅い当時，わが国で出版された脳神経外科著書はまだ殆ど無く，あっても脳腫瘍も神経外傷も欧米の受け売りのものであった。そこで大学・市内のあちこちの図書館をかけずり回り，容易に見つからない国外の医書をさがした。

E. S. Gurdjian: Head Injury，J. M. Potter: The Practical Management of Head Injuries　そのほか，Dandy，Jennettなど数冊をやっと見つけて読んだが，どの書にも病態の説明はあっても頭部外傷の発生統計的記載が無かった。日本の頭部外傷の社会医学的研究を発表された故 森安信雄教授の一冊は，日本大学医学部附属病院を受診した頭部外傷患者だけの統計であった。

したがって，頭部外傷患者が欧米諸国にも，わが国も，どのくらい発生して，どのような経過を取っているのかわからずに，頭部外傷の研究に没頭し，自分の少ない経験を信じて外傷患者を診療していた。

しかし，その間に欧米では確実に頭部外傷データバンクへの歩みを，重症患者を中心に進めていた。1974年，1975年 Jennett，Teasdale，Bondらが Glasgow Coma Scaleを初めてLancet上で世界に問うた。そして1977年には米英オランダ協力で重症頭部外傷700例の初期資料とその成果について詳細に報告し，1979年には Marshall

及びJennettがそれぞれ同様に発表した。更に1982年Gennarelli，1983年MarshallのComa Data Bankは非常に臨床に有効有益であり，患者の治療にも家族への対応にも研究にも大いに役に立ったが，1991年Journal of Neurosurgeryから発行された**THE TRAUMATIC COMA DATA BANK**の成果には，まさに圧倒された。

この間に私の医学的環境には大きな出来事があった。1985年国際神経外傷委員会（WFNS関連・米，英，日ほか約15名の委員）の日本代表委員に任命され，毎年委員会に出席した。この席上で，公的・私的にたびたび「日本を代表する神経外傷のデータ」を質問され，なんとも返事ができずに恥ずかしい思いがした。一番困ったのは，ポルトガルの代表から，自著の中に日本の資料を入れたいから少数でもいいから教えてほしいといわれ，日本警察庁の資料の一部を送った時であった。

この様な事情から，日本を代表するデータバンクを，遅まきながら出来るだけ早く設立しなければならないと心に決めた。この頃の国内文献から，熊本赤十字病院・丸林 徹 脳神経外科部長が熊本で，また仙台市立病院・小沼武英 脳神経外科部長が東北で，それぞれの地域の頭部外傷データバンクをすでに設立しておられることを知り，大変感動してわが身を恥じた。早速，山浦 晶教授・重森 稔教授に相談した上で，終戦後49年経過した1994年（平成6年）日本脳神経外科学会総会に，1995年日本神経外傷研究会（当時）に，日本を代表するデータバンクの設立を提唱し，賛同を得て具体策に入った。

警察庁交通局・交通事故総合分析センター・総務庁そのほか多数の公的組織の了解・協力を得た上で，1996年日本データバンク委員会を起ち上げた。その時点でのメンバーは，有賀 徹・小川武希・片山容一・小沼武英・重森 稔・平川公義・丸林 徹・山浦 晶・神田橋宗一の各委員に，委員長として私が加わり，幹事として小野純一・川又達朗の両先生が参加し，第1回の委員会が1996年5月23日に開催された。

以上のようないきさつで，わが国の頭部外傷データバンクが発足したが，その後の運営・成果については私以外の執筆者が詳述されると思うので，そちらにお任せしたい。

日本頭部外傷データバンクの誕生と発展

山浦　晶
千葉県立保健医療大学　学長

日本頭部外傷データバンク（Japan Neurotrauma Data Bank）について語る時，出発点に中村紀夫先生のご提案があったことをまず思い浮かべる。中村先生は常に日本における頭部外傷研究のリーダーとして活躍されてきた方であるが，日本の代表として国際委員会等に出席され，日本に「日本のデータ」がないことを恥ずかしく思ったと幾度となく話されていた。思いは，私どもも全く同じであった。

1970年から1980年にかけて，特にヨーロッパにおけるデータバンクの活動には目を見張るものがあり，またその活動には常に優秀な脳神経外科医がいた。

米国はその流れに加わって行った。

私自身インターンの頃から，頭部外傷の病態や治療には強い興味をもっていたし，かつては日々の勤務のなかで頭部外傷患者のケアにはかなりの時間を費やしていた。一線を退くにしたがい，頭部外傷を見る目も変わってきた。

頭部外傷のありようには，その国，その時の社会的要素がきわめて強く関わっていたとしみじみ思うのである。我が国の経済が急成長していた頃，頭部外傷は脳神経外科医に課せられたもっとも重要な日常的な課題であった。狭い道路を大型トラックが艦隊のように猛スピードで行き来し，交通のための環境もマナーもまだ未熟であった。その犠牲者は多かった。今はどうであろう。交通事故死はかつての半分ほどに減少している。

データバンクの誕生とその発展は，個別症例への関心から，全体像の解析と社会の中でのありようを考えるステージへ変化したといえよう。

中村先生は，日本にも「日本のデータ」をもつ組織を作ろうと提案され，1994年日本脳神経外科学会総会に諮り，ついで翌年に日本神経外傷研究会の支持を得た。この

あたりの進め方は実に賢明であり，先生の提案に感謝している。つまり，全日本の事業として出発しようと考えられたのである。そのほか関係省庁からも了解と協力を取り付けられたが，これは中村先生ならではのご功績である。

国内にも熊本赤十字病院の丸林徹先生や仙台市立病院の小沼武英先生など，それぞれの地域でデータバンク機能を果たしている例もあり，これらをも参考にしてメンバーを集い，第1回委員会が開催されたのは1996年5月であった。

まずは，研究プロトコール（データシート）作成において388項目を抽出した。

項目が多すぎても，細かすぎても，また重要項目が抜けていてもいけない。

かなりたいへんな作業であった。膨大な文献も読んだ。

データバンクの活動は，パイロットスタディから始まり，プロジェクト1998，2004，2009（進行中）と継続されていった。検証作業として，2005年にはOne Week Studyを脳神経外科訓練施設において行った。

この日本頭部外傷データバンク13年の歴史の中で，業績は学会発表210題，論文発表69編を生産したとのことである。

こうした軌跡を，中村先生から引き継いだ重森先生の退官を機にサマライズすることは，極めて意義深いものと思う。

日本頭部外傷データバンクの発展を心から祝福したい。

業績目録の発刊に寄せて

重森　稔
久留米大学脳神経外科　教授

この度，日本脳神経外傷学会の学術的プロジェクトのなかで最初に発足し，1997年以来着実な実績をあげてきた頭部外傷データバンク委員会（JNTDB）から，今までの業績を纏めた業績目録が発刊される運びとなった。まことに喜ばしいことである。

まず最初に記すべきことは，このプロジェクトが日本脳神経外傷学会の生みの親，また育ての親ともいえる東京慈恵会医科大学名誉教授　中村紀夫先生の並々ならぬご努力により発足したということである。従来，わが国の神経外傷研究は主として各大学や各施設で個別に行われ，多施設共同研究の組織化という考えかたは必ずしも浸透していなかった。しかしながら先生は広く海外の情報にも精通されており，以前から日本での多施設共同研究の必要性や重要性を認識され，データバンク設立に強い意欲を持っておられた。先生のこの熱意と情熱がデータバンク委員会の設立とプロジェクト活動開始につながったことは疑いのないところである。私自身も，1991年11月にJ. Neurosurgeryのsupplementとして発表された“Report on THE TRAUMATIC COMA DATA BANK”（vol.75, S1–S66）および同年のJ. NeurotraumaのSupplement 1, Central Nervous System Trauma―Status Report 1991―（vol.9, S1–S416）の量，質ともに圧倒的なデータに，当時のわが国の実情と比べ彼我の差を痛感したことを思いだす。その後多くの方々の努力により，今日まで多くの実績を挙げてきたことは周知のことであろう。

今回の業績目録の発刊は，一重に小野委員長をはじめ本プロジェクトの企画や運営，データ収集と解析，さらに財政的支援などはもとより，大変精力的にその成果を発信してきた委員の皆様や関係者の方々の御尽力の賜物である。心からの敬意を表するとともに感謝と御礼を申し上げたい。

あらためてこの業績目録を見返すと，その内容は学会発表210題，論文発表69編という膨大なものである。いずれも大変質の高い優れた実績と業績であり，今後のプロ

ジェクト活動の基礎データとして，また研究指針として大変貴重なものである。この業績が日本脳神経外傷学会会員だけでなく，日本脳神経外科学会会員や神経外傷に関与する多くの方々の日常診療や研究の参考資料として広く利用されることを願っている。今後さらに海外での大規模臨床研究や各国からのデータバンクや疫学研究結果などとの比較検討をすすめ，プロジェクトの成果が国際的にも広く発信されるよう念願している。

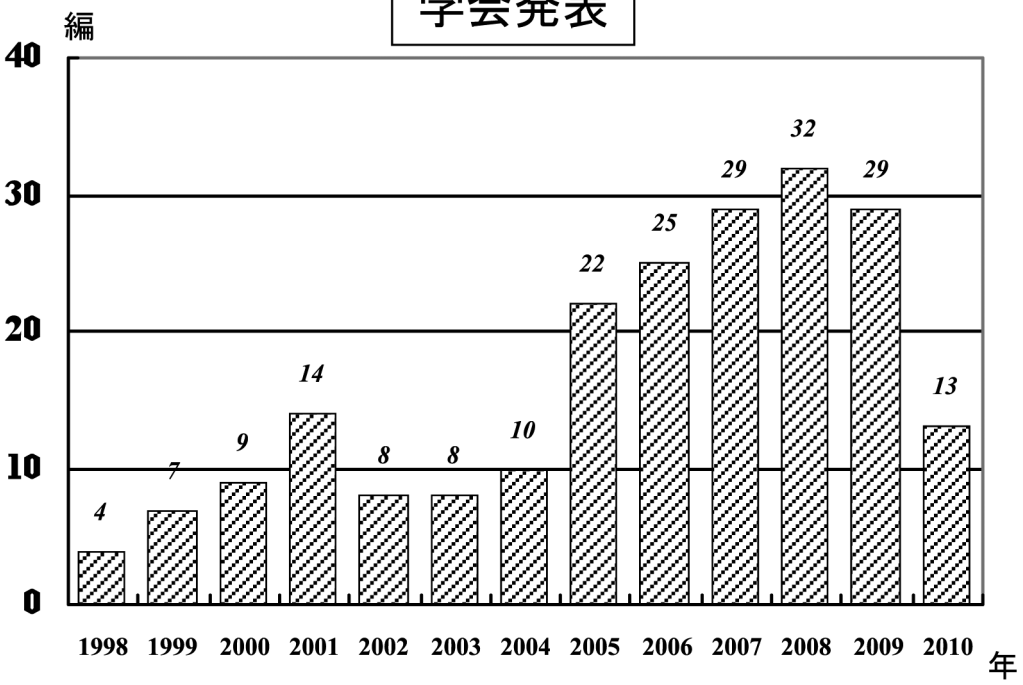
最後に，巻末にある本委員会設立以来の多くの委員の方々に，改めて心からの謝意と御礼を申し上げる次第である。

日本頭部外傷データバンクの歩み

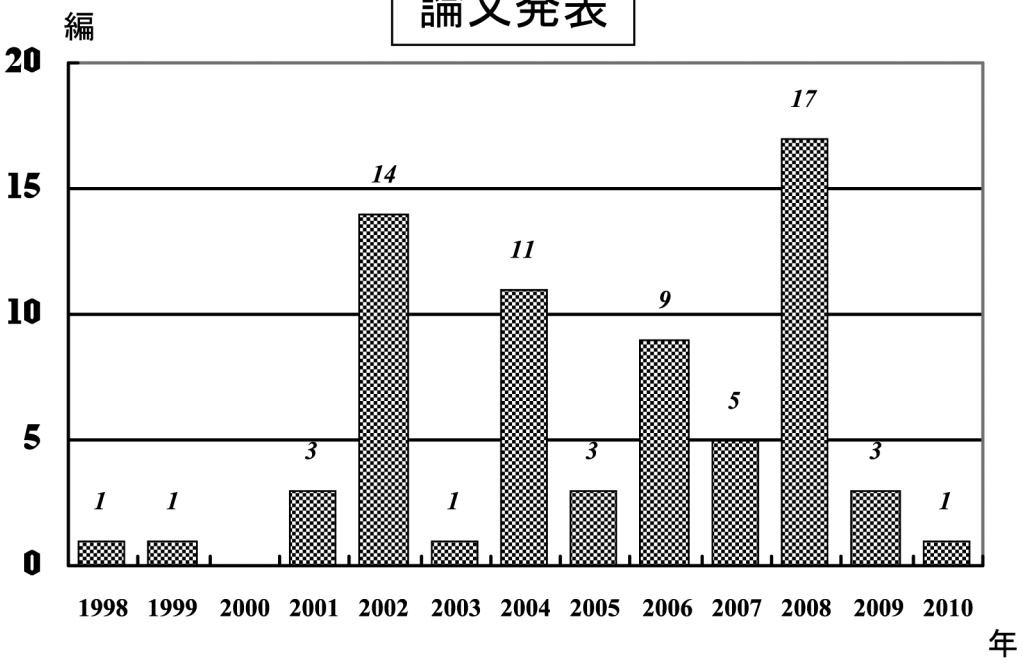
年　月	項　目
1996年	日本頭部外傷データバンク検討委員会発足 第1次研究プロトコール（データシート）検討・作成
1997年	パイロット研究（8施設），36例集計
1998年	プロジェクト1998開始（10施設）
2000年	重症頭部外傷治療・管理のガイドライン初版作成（神経外傷 Vol.23）
2001年	プロジェクト1998終了，1,002例集計
2002年	頭部外傷データバンク検討委員会報告書（神経外傷 Vol.25, No.3）
2003年	第2次研究プロトコール（データシート）検討・作成
2004年	プロジェクト2004開始（19施設） One Week Studyプロトコール（データシート）検討・作成
2005年6月	One Week Study（脳神経外科学会A/C項訓練施設327施設），802例集計
2006年	プロジェクト2004終了，1,101例集計 重症頭部外傷治療・管理のガイドライン第2版作成 （神経外傷 Vol.29, Supplement）
2008年	頭部外傷データバンク検討委員会報告【プロジェクト2004】 （神経外傷 Vol.31，特別号） 第3次研究プロトコール（データシート）検討・作成
2009年	プロジェクト2009開始（22施設）（登録期間：2011年までを予定）
2010年	頭部外傷データバンク業績目録作成 第2次One Week Studyプロトコール（データシート）検討・作成
2011年6月	One Week Study 2011予定

学会発表・論文発表の推移

学会発表



論文発表



学会発表

【1998年】

1. 小川武希，ほか
   わが国における頭部外傷データバンクシステムの設立へ向けて
   ―第一報；多地域8施設での試行―
   第21回日本神経外傷研究会（京都）

2. 小野純一，ほか
   わが国における頭部外傷データバンクの試行 ―第2報―
   第34回日本交通科学協議会総会（新潟）

3. 小野純一，ほか
   わが国における頭部外傷データバンクシステム
   第3報：多地域8施設での試行
   第57回日本脳神経外科学会総会（札幌）

4. 小川武希
   わが国における頭部外傷データバンクシステムの現況
   第26回日本救急医学会（香川）

【1999年】

5. Nakamura N
   Epidemiology, prevention of, and countermeasures against severe traumatic brain injury in Japan and abroad
   ICRAN 1999（Taipei）

6. 川又達朗，ほか
   頭部外傷データバンク1998年年報：
   多地域9施設における重症頭部外傷症例の分析（第4報）
   第22回日本神経外傷研究会（福岡）

7. 有賀　徹
外傷学における頭部外傷（特別発言）
第 13 回日本外傷学会（東京）

8. 小野純一，ほか
わが国における頭部外傷データバンクシステム
第 6 報：第 3 次救急病院における 163 例の分析
第 35 回日本交通科学協議会（横浜）

9. 小野純一，ほか
わが国における頭部外傷データバンク
第 7 報：救命救急センターにおける 163 例の分析 ―part 1. 疫学的検討―
第 58 回日本脳神経外科学会総会（東京）

10. 川又達朗，ほか
わが国における頭部外傷データバンクシステム
第 7 報 part 2: 初診時 GCS ≧ 7 で転帰不良となった症例の分析
第 58 回日本脳神経外科学会総会（東京）

11. 坂本哲也，ほか
日本における頭部外傷データバンク
―三次救急病院 9 施設における 202 例の解析―
第 27 回日本救急医学会（東京）

【2000 年】

12. 佐藤公則，ほか
重症頭部外傷の動向 ―熊本県と全国の比較
第 23 回日本神経外傷学会（福島）

13. 徳富孝志，ほか
わが国における頭部外傷データバンク：
初診時の呼吸・血圧異常
第 23 回日本神経外傷学会（福島）

14. 山口由太郎

重症頭部外傷の発生因子 ―交通事故例の解析

第 23 回日本神経外傷学会（福島）

15. 山口由太郎

びまん性軸索損傷と急性硬膜下血腫の相違点
―頭部外傷データバンク症例の検討―

第 23 回日本神経外傷学会（福島）

16. 豊田　泉，ほか

第 12 報：交通事故による重症頭部外傷と多発外傷の検討
～頭部外傷データバンクより～

第 14 回日本外傷学会（横浜）

17. 豊田　泉，ほか

第 13 報：重症頭部外傷時の多発外傷について
―頭部外傷データバンクより―

第 36 回日本交通科学協議会（名古屋）

18. 藤本正人，ほか

重症頭部外傷後水頭症の検討
―頭部外傷データバンク症例を中心に―

第 59 回日本脳神経外科学会総会（福岡）

19. 中村　弘

わが国における頭部外傷データバンク：急性硬膜下血腫の臨床的検討

第 59 回日本脳神経外科学会総会（福岡）

20. 坂本哲也，ほか

頭部外傷データバンクによる多発外傷の分析

第 28 回日本救急医学会（東京）

【2001年】

21. Ogawa T

Surgical Approach to Extradural/Subdural Hematomas;
possible conservative management in selected cases ?

12th WCNS, WFNS（Sydney）

22. Ogawa T

Preliminary Report Traumatic Coma Data Bank Project in JAPAN（JTCDB）

12th WCNS, WFNS（Sydney）

23. 亀山元信，ほか

頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―び慢性脳損傷，局所性脳損傷および両者合併例の解析―

第24回日本神経外傷学会（高松）

24. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討：
交通事故で受傷した254例の分析

第24回日本神経外傷学会（高松）

25. 徳富孝志，ほか

わが国における頭部外傷データバンク：
diffuse brain swellingと早期呼吸・血圧異常

第24回日本神経外傷学会（高松）

26. 早川隆宣，ほか

低体温療法の治療効果の検討：
わが国における頭部外傷データバンクから

第15回日本外傷学会（東京）

27. 豊田　泉

臨床評価指標（Clinical Indicator）からみた
頭部外傷データバンク指定10施設の検討

第15回日本外傷学会（東京）

28. 小野純一，ほか

交通事故で受傷した重症頭部外傷の検討
―頭部外傷データバンクに登録された 254 例の分析―

第 37 回日本交通科学協議会（横浜）

29. 豊田　泉，ほか

臨床評価指標からみた交通事故による頭部外傷の検討
―頭部外傷データバンクより―

第 37 回日本交通科学協議会（横浜）

30. 早川隆宣，ほか

わが国の頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷に対する
低体温療法の分析

第 4 回日本脳低温療法研究会（宇部）

31. 是松幸二郎，ほか

頭部外傷長期予後に関する考察：頭部外傷データバンクに基づく分析

第 60 回日本脳神経外科学会総会（岡山）

32. 卯津羅雅彦，ほか

頭部外傷データバンクによる talk & deteriorate 例の検討

第 60 回日本脳神経外科学会総会（岡山）

33. 早川隆宣，ほか

わが国における頭部外傷データバンクによる低体温療法の分析

第 29 回日本救急医学会（東京）

34. 早川隆宣，ほか

わが国における頭部外傷デ－タバンク：
重症頭部外傷に対する低体温療法

第 56 回国立病院療養所総合医学会（仙台）

【2002年】

35. Kawamata T, et al

Head injured patients who talk and deteriorate:
Analysis of 86 cases registered on the Japan Neurotrauma Data Bank

The 1st Joint Symposium of the12th Annual National Neurotrauma Society Symposium and The 6th INTS（Florida）

36. Ogawa T

Preliminary Report: Traumatic Coma Data Bank Project in Japan

The 6th INTS（Florida）

37. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の疫学的・臨床的検討
―交通事故と非交通事故の比較―

第7回日本脳神経外科救急学会（東京）

38. 小野純一，ほか

交通事故で受傷した重症頭部外傷の疫学的・臨床的検討
頭部外傷データバンクに登録された273例の分析

第25回日本神経外傷学会（東京）

39. 高木修一，ほか

重症頭部外傷 ―日本神経外傷学会頭部外傷データバンクと
熊本県頭部外傷データバンクとの対比―

第25回日本神経外傷学会（東京）

40. 山浦　晶

頭部外傷データバンクの成果と今後の展望

第25回日本神経外傷学会（東京）

41. 徳富孝志，ほか

重傷頭部外傷における搬入前呼吸循環障害が転帰に及ぼす影響
―頭部外傷データバンクより―

第38回日本交通科学協議会（熊本）

42. 中村　弘
急性硬膜下血腫を伴う重症頭部脳外傷に対する外科的治療法の検討
第 61 回日本脳神経外科学会総会（松本）

【2003 年】

43. 亀山元信，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の年齢別検討
第 26 回日本神経外傷学会（奈良）

44. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクに登録された 721 例の疫学的・臨床的検討
―単独頭部外傷例と多発外傷の比較
第 26 回日本神経外傷学会（奈良）

45. 田中幸太郎，ほか
頭部外傷データバンクにおける頭部外傷の年齢と予後の検討
第 26 回日本神経外傷学会（奈良）

46. 卯津羅雅彦，ほか
びまん性脳損傷に合併した局所性脳損傷の分析
―頭部外傷データバンクから―
第 26 回日本神経外傷学会（奈良）

47. 小川武希
わが国における頭部外傷データバンクの試み
第 23 回日本脳神経外科コングレス（大阪）

48. 山木垂水，ほか
重症頭部外傷の治療成績
―頭部外傷データバンク検討委員会報告書を基に―
第 23 回日本脳神経外科コングレス（大阪）

49. 小川武希，ほか
頭部外傷データバンクに登録された交通事故症例の分析；総括
第 39 回日本交通科学協議会（東京）

50. 中村　弘
急性硬膜下血腫を伴う重症頭部脳外傷の臨床因子と治療法：
頭部外傷データバンク参加施設間の違い
第 62 回日本脳神経外科学会総会（仙台）

【2004 年】

51. Sakamoto T, et al
Multiple injury in Japan Traumatic Coma Data Bank (JTCDB)
ICRAN 2004（Aswan, Egypt）

52. Sakamoto T, et al
Management of Multiple Trauma Patient
ICRAN 2004（Aswan, Egypt）

53. 小川武希
＜教育セミナー＞　頭部外傷
第 9 回日本脳神経外科救急学会（広島）

54. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクに登録された重症頭部外傷の検討
―交通事故例の疫学的・臨床的特徴―
第 9 回日本脳神経外科救急学会（広島）

55. 川又達朗，ほか
脳挫傷・外傷性脳内血腫の病態：頭部外傷データバンク登録 182 例の検討
第 27 回日本神経外傷学会（東京）

56. 小川武希，ほか
頭部外傷データバンク報告；1997 ― 2001
第 27 回日本神経外傷学会（東京）

57. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―交通事故の受傷原因と頭蓋・頭蓋内損傷の関係―
第 27 回日本神経外傷学会（東京）

58. 徳富孝志，ほか
外傷性クモ膜下出血の臨床的意義：JNTDB からの検討
第 27 回日本神経外傷学会（東京）

59. 小川武希
頭部外傷データバンク検討委員会新プロジェクトの概要
―新データシートを中心に―
第 63 回日本脳神経外科学会総会（名古屋）

60. 小川武希
頭部外傷データバンク委員会に登録する第 2 次頭部外傷データバンク研究の最終報告
第 63 回日本脳神経外科学会総会（名古屋）

【2005 年】

61. Ono J, et al
Baseline characteristics in Japan Neurotrauma Data Bank:
Comparison with Data in National Traumatic Coma Data Bank
3rd World Congress of the Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology（Nagoya）

62. Takasato Y, et al
Multidisciplinary treatment including brain hypothermia
for severe brain injury
3rd World Congress of the Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology（Nagoya）

63. Shigemori M
Lessons learned from neurotrauma project in Japan
WFNS 2005（Morocco）

64. Tokutomi T, et al
The processes responsible for age-associated increase in worse outcome:
a report from the Japan Neurotrauma Data Bank
23rd Annual National Neurotrauma Society Symposium（Washington DC）

65. Katayama Y, et al

Keynote lecture: Surgical management of early massive edema caused by cerebral contusion. Analysis of 182 cases registered to Japan Neurotrauma Data Bank

BRAIN EDEMA 2005（Michigan）

66. 小川武希，ほか

頭部外傷データバンク第2次スタディー最終報告

第10回日本脳神経外科救急学会（名古屋）

67. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―臨床的特徴，画像所見および転帰の年齢別分析―

第10回日本脳神経外科救急学会（名古屋）

68. 川又達朗，ほか

頭部外傷データバンクにおける初診時GCS 9-15の症例の分析：
軽症から中等頭部外傷の転帰を改善するためにはどうしたらよいか

第28回日本神経外傷学会（大宮）

69. 小川武希，ほか

頭部外傷データバンク研究「プロジェクト2004」

第28回日本神経外傷学会（大宮）

70. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―交通事故受傷例における頭蓋外損傷，転帰の分析―

第28回日本神経外傷学会（大宮）

71. 徳富孝志，ほか

頭部外傷データバンク登録症例におけるCT分類からの検討

第28回日本神経外傷学会（大宮）

72. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンクにおける高齢者重症頭部外傷の検討
―臨床的特徴，画像所見および転帰の分析―

第18回日本老年脳神経外科学会（富山）

73. 有賀　徹
「神経外傷」の視点から
第 25 回日本脳神経外科コングレス（北九州）

74. 片山容一
重症頭部外傷の治療：過去 10 年で何が変わったか
第 25 回日本脳神経外科コングレス（北九州）

75. 小川武希
頭部外傷ガイドラインの検証
第 25 回日本脳神経外科コングレス（北九州）

76. 小川武希
第 2 次頭部外傷データバンク最終報告
第 41 回日本交通科学協議会（京都）

77. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―交通事故の受傷原因別の病態と転帰―
第 41 回日本交通科学協議会（京都）

78. 徳富孝志，ほか
高齢者の交通事故 ―頭部外傷データバンクからの報告―
第 41 回日本交通科学協議会（京都）

79. 高里良男，ほか
重症頭部外傷における脳低体温療法の役割
第 19 回日本神経救急学会（東京）

80. 高里良男，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷に対する脳低温療法の分析
第 8 回日本脳低温療法学会（高松）

81. 前田幸宏，ほか
重症頭部外傷の予後に影響するリスク因子に関する研究
第 64 回日本脳神経外科学会（横浜）

82. 土肥謙二，ほか

重症頭部外傷の予後における性差の影響について
―頭部外傷データバンクを用いた検討―

第 33 回日本救急医学会総会（大宮）

【2006 年】

83. Kawamata T, et al

How can we improve the outcome of patients who have initially good GCS and deteriorate thereafter ? : Analysis of 169 cases in Japan Neurotrauma Data bank

8th INTS（Rotterdam）

84. Takasato Y

Analysis of the brain hypothermia treatment to severe brain injury in the Japan Neurotrauma Data Bank

8th INTS（Rotterdam)

85. 小川武希

頭部外傷データバンクの現状

第 11 回日本脳神経外科救急学会（大阪）

86. 小野純一，ほか

重症頭部外傷に対する急性期治療の現状：
頭部外傷データバンクの分析から

第 11 回日本脳神経外科救急学会（大阪）

87. 中林基明，ほか

頭部外傷データバンク：短期間全国調査アンケートの集計結果

第 29 回日本神経外傷学会（東京）

88. 小野純一，ほか

交通事故で受傷した頭部外傷における飲酒の影響：
頭部外傷データバンクの検討から

第 29 回日本神経外傷学会（東京）

89. 沢内　聡，ほか

びまん性脳損傷としての急性硬膜下血腫：
頭部外傷データバンク 1002 例の検討

第 29 回日本神経外傷学会（東京）

90. 高里良男，ほか

頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷に対する
脳低体温療法の役割分析

第 29 回日本神経外傷学会（東京）

91. 小川武希

重症頭部外傷の治療・管理のガイドライン改訂版

第 26 回日本脳神経外科コングレス（東京）

92. 土肥謙二，ほか

頭部外傷データバンクを用いた重症頭部外傷の予後と性差の検討

第 20 回日本外傷学会（名古屋）

93. 土肥謙二，ほか

頭部外傷データバンク【プロジェクト 2004】における
自転車事故に関連した重症頭部外傷例の検討

第 20 回日本神経救急学会（東京）

94. 沢内　聡，ほか

交通事故による急性硬膜下血腫：頭部外傷データバンク 1002 例の検討

第 20 回日本神経救急学会（東京）

95. 土肥謙二，ほか

頭部外傷データバンク［プロジェクト 2004］における
自転車事故に関連した重症頭部外傷例の検討

第 42 回日本交通科学協議会（東京）

96. 平川公義，ほか

交通事故による高次脳機能障害の実態
―日本交通科学協議会研究斑からの報告―

第 42 回日本交通科学協議会（東京）

97. 河井信行，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷に対する低体温療法の変化
第 42 回日本交通科学協議会（東京）

98. 中林基明，ほか
頭部外傷データバンク：短期間全国調査アンケートの集計結果
第 42 回日本交通科学協議会（東京）

99. 卯津羅雅彦，ほか
歩行者，自転車の立場からみた重症頭部外傷の分析：
頭部外傷データバンクからの報告
第 42 回日本交通科学協議会（東京）

100. 高里良男，ほか
重症頭部外傷に対する脳低温療法の役割
（頭部外傷データバンク解析より）
第 9 回日本脳低温療法学会（東京）

101. 高里良男，ほか
重症頭部外傷に対する脳低体温療法の役割
（頭部外傷データバンクの解析より）
第 60 回国立病院総合医学会（京都）

102. 中村　弘，ほか
重症頭部外傷の死亡率経年変化：受傷原因，年令との関係
第 65 回日本脳神経外科学会総会（京都）

103. 沢内　聡，ほか
頭部外傷データバンク 1002 例における急性硬膜下血腫の検討：
局所性損傷，びまん性脳損傷としての病態生理
第 65 回日本脳神経外科学会総会（京都）

104. 徳富孝志，ほか
重症頭部外傷例における搬送経過と転帰：
日本頭部外傷データバンクからの報告
第 65 回日本脳神経外科学会総会（京都）

105. 卯津羅雅彦，ほか

重症頭部外傷における急性硬膜外血腫例の検討：
頭部外傷データバンクから

第 65 回日本脳神経外科学会総会（京都）

106. 中林基明，ほか

頭部外傷データバンク：短期間全国調査アンケートの集計結果

第 34 回日本救急医学会総会（福岡）

107. 卯津羅雅彦，ほか

重症頭部外傷における ICP モニタリングの役割：
頭部外傷データバンクからの報告

第 34 回日本救急医学会総会（福岡）

【2007 年】

108. Sakamoto T

Historical changes in Japan Neurotrauma Data Bank（JNTDB）1998 and JNTDB 2004

ICRAN 2007（Tianjin）

109. Shigemori M

Lesson learned from neurotrauma projects

ICRAN 2007（Tianjin）

110. Yokobori S, et al

The relationship between acute phase management and long term outcome in severe head-injured patients

韓国応急医学会（韓国）

111. Takasato Y, et al

Effect of the brain hypothermia treatment to severe brain injury in the Japan Neurotrauma Data Bank（JNTDB）

2nd International Brain Hypothermia Symposium（Miami）

112. Katayama Y, et al
Invited lecture: Surgery of cerebral contusion
Congress of Neurological Surgeons 2007（California）

113. 沢内　聡，ほか
急性硬膜外血腫における Preventable Trauma Death：
頭部外傷データバンクの検討
第 12 回日本脳神経外科救急学会（東京）

114. 小野純一，ほか
重症頭部外傷治療の現状：
頭部外傷データバンクにおける Project 2004 の分析から
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

115. 榊原毅彦，ほか
重症頭部外傷患者に対する積極的脳平温療法と手術療法の併用の有効性
―後期頭部外傷データバンクの検討より―
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

116. 坂本哲也
頭部外傷データバンク検討委員会報告：プロジェクト 2004 について
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

117. 佐藤　章，ほか
重症頭部外傷治療における病院前対応の現状と問題点：
頭部外傷データバンクによる後ろ向き検討
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

118. 沢内　聡，ほか
交通事故におけるアルコールおよび安全装置：
頭部外傷データバンク（プロジェクト 2004）の検討
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

119. 沢内　聡，ほか
頭部外傷データバンクにおける急性硬膜下血腫と
びまん性脳損傷の受傷機転の比較，検討
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

120. 徳富孝志，ほか
＜基調講演＞　高齢者重症頭部外傷の現況と問題点
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

121. 卯津羅雅彦，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷小児例の検討
第 30 回日本神経外傷学会（仙台）

122. 小野純一，ほか
小児頭部外傷の最近の動向：頭部外傷データバンクの分析から
第 35 回日本小児神経外科学会（木更津）

123. 中江竜太，ほか
高齢者頭部外傷における OPLL，脊柱管狭窄症，頸椎症合併例の検討
第 21 回日本神経救急学会学術集会（京都）

124. 高里良男，ほか
重症頭部外傷に対する脳低温療法の効果
（どのような対象，方法で効果が高いか？）
第 10 回日本脳低温療法学会（山口）

125. 布施　明，ほか
TCDB 分類における Diffuse injury の予後判別因子の検討
―JNTDB（プロジェクト 2004）231 症例から―
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

126. 石坂秀夫，ほか
1998 年より頭部外傷データバンクに参加している施設と
2004 年より参加した施設の間でのデータ比較検討
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

127. 川又達朗，ほか
転帰からみた日本の重症頭部外傷の特徴：
頭部外傷データバンクと海外大規模調査との比較
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

128. 小川武希，ほか
頭部外傷データバンクプロジェクト 2004 の概要
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

129. 小野純一，ほか
小児頭部外傷の最近の動向：頭部外傷データバンクの分析から
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

130. 坂本哲也，ほか
日本神経外傷学会頭部外傷データバンク
―1998 と 2004 の比較から―
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

131. 徳富孝志，ほか
減圧開頭術の効果について：頭部外傷データバンクからの報告
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

132. 横堀将司，ほか
重症頭部外傷受傷後 6 カ月転帰からの管理治療の検討
―日本頭部外傷データバンクにおける 168 症例から―
第 66 回日本脳神経外科学会総会（東京）

133. 布施　明，ほか
TCDB 分類における Diffuse injury II の予後判別因子の検討
―JNTDB（プロジェクト 2004）139 症例から―
第 35 回日本救急医学会総会（大阪）

134. 平田雅文，ほか
日本神経外傷学会頭部外傷データバンク 2004 報告【第一報】
第 35 回日本救急医学会総会（大阪）

135. 大貫隆広，ほか
重症頭部外傷における Emergency Coma Scale の有用性について
―日本神経外傷学会頭部外傷データバンク 1002 例の検討―
第 35 回日本救急医学会総会（大阪）

136. 卯津羅雅彦，ほか
重症頭部外傷急性期における ICP 管理による治療手段の選択
第 35 回日本救急医学会総会（大阪）

【2008 年】

137. Shigemori M
Lesson learned from Neurotrauma Project
International Conference of Multidisciplinary Neurotraumatology (Nagoya)

138. Maeda T, et al
Surgical decompression of cerebral contusions
The 26th Annual National Neurotrauma Symposium（Florida）

139. Maeda T, et al
Surgical decompression of cerebral contusions
First Educational Course of ISRN, WFNR, ACNS, AMN and QOLIBRI Society（Indonesia）

140. 藤川　厚，ほか
重症頭部外傷における病態と転帰の最近の動向：
頭部外傷データバンクにおける受傷原因別分析から
第 13 回日本脳神経外科救急学会（東京）

141. 小野純一，ほか
重症頭部外傷治療の最近の動向：頭部外傷データバンクの分析から
第 13 回日本脳神経外科救急学会（東京）

142. 小野純一
【教育講演】高齢者の頭部外傷： Japan Neurotrauma Data Bank からみた高齢者頭部外傷の最近の動向
第 21 回日本老年脳神経外科学会（東京）

143. 藤川　厚，ほか

重症頭部外傷における受傷原因別病態・転帰の最近の動向：
頭部外傷データバンクの分析から

第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

144. 亀山元信，ほか

頭部外傷データバンク（プロジェクト 2004）における年令と受傷機転，
退院時転帰の解析

第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

145. 宮田昭宏，ほか

急性硬膜下血腫に対する年齢層別治療戦略の現状
―JNTDB Project 2004 からの検討―

第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

146. 中村　弘，ほか

転倒・転落による高齢者の脳外傷の病態分析と発生メカニズムの考察
―日本頭部外傷データバンクから―

第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

147. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンクに登録された重症頭部外傷の検討：
交通事故受傷例の分析

第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

148. 榊原毅彦，ほか

重症頭部外傷における体温管理―積極的脳平温療法の有用性について
―Project 2004 のデータより

第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

149. 坂本哲也，ほか

頭部外傷データバンク（JNTDB）1998 と 2004 における経年的変化について

第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

150. 佐藤　章，ほか
頭部外傷急性期における Stress Index 変動の意味：
頭部外傷データバンクによる検討
第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

151. 末廣栄一，ほか
びまん性脳損傷に対する脳温の影響：頭部外傷データバンクの検討
第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

152. 卯津羅雅彦，ほか
頭部外傷データバンク：プロジェクト 2004 の概要
第 31 回日本神経外傷学会（大阪）

153. 坂本哲也，ほか
頭部外傷データバンク（JNTDB）1998 と JNTDB 2004 の比較から
第 22 回日本外傷学会（沖縄）

154. 卯津羅雅彦，ほか
CT 所見からみた重症頭部外傷の現状：頭部外傷データバンクから
第 22 回日本外傷学会（沖縄）

155. 卯津羅雅彦，ほか
交通事故に起因する重症頭部外傷の現状：頭部外傷データバンクから
第 44 回日本交通科学協議会（札幌）

156. 土肥謙二，ほか
本邦における自転車事故に起因した頭部外傷の特徴について
（頭部外傷データバンク 1950 例の検討）
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

157. 河井信行，ほか
重症頭部外傷患者における頭蓋内圧モニターの現状
―頭部外傷データバンク P2004 から―
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

158. 宮田昭宏，ほか
JNTDB における急性硬膜下血腫の検討 ―Project 1998/2004 の比較から―
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

159. 中村　弘，ほか
成人急性硬膜下血腫：手術例の転帰に関する因子の再検討
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

160. 奥野憲司，ほか
頭部外傷データバンク，プロジェクト 2004 の経緯と概要
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

161. 小野純一，ほか
交通事故で受傷した重症頭部外傷例の最近の動向：
頭部外傷データバンクの検討から
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

162. 高里良男，ほか
頭部外傷データバンク 2004 における手術治療の分析
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

163. 徳富孝志，ほか
早期呼吸循環異常と CT 分類： JNTDB Project 2004 と 1998 の比較
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

164. 卯津羅雅彦，ほか
転帰からみた重症頭部外傷の現状：頭部外傷データバンクから
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

165. 柳下美登里，ほか
1998 年より頭部外傷データバンクに参加している施設と
2004 年より参加した施設の間でのデータ比較
第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

166. 横堀将司，ほか

高齢者重症頭部外傷における積極的治療決定因子の検討
―日本頭部外傷データバンク（JNTDB project 2004）登録症例から―

第 67 回日本脳神経外科学会総会（盛岡）

167. 奥野憲司，ほか

本邦における重症頭部外傷患者の検討：頭部外傷データバンク 2004 より
交通事故例と非交通事故例について

第 36 回日本救急医学会総会（札幌）

168. 大貫隆広，ほか

頭部外傷データバンク（JNTDB）

第 36 回日本救急医学会総会（札幌）

【2009 年】

169. Dohi K, et al

Bicycle-related severe head injury in Japan

The Second Joint Symposium of the International and
National Neurotrauma Societies（Santa Barbara）

170. Maeda T, et al

Surgical treatment for cerebral contusion:
Evaluation of 175 patients registered in the Japan Neurotrauma Data Bank

The Second Joint Symposium of the International and
National Neurotrauma Societies（Santa Barbara）

171. Okuno K, et al

The increased penalties for drinking and driving offences significantly decrease the traffic severe brain injury with drinking: A report from the Japan Neurotrauma Data Bank

The Second Joint Symposium of the International and
National Neurotrauma Societies（Santa Barbara）

172. Shigemori M
Lesson learned from Neurotrauma projects and neurointensive care
18th Annual Conference of Neurotrauma Society of INDIA（Jaipur）

173. 藤川　厚，ほか
急性硬膜外血腫における病態と転帰の動向：
頭部外傷データバンク project 1998 と Project 2004 の比較
第 14 回日本脳神経外科救急学会（さいたま）

174. 小野純一，ほか
重症頭部外傷治療の最近の動向：
頭部外傷データバンクにおける分析結果と考察
第 14 回日本脳神経外科救急学会（さいたま）

175. 柳下美登里，ほか
頭部外傷データバンク参加施設間のデータ比較
第 14 回日本脳神経外科救急学会（さいたま）

176. 藤川　厚，ほか
転落・転倒に伴う頭部外傷の病態と転帰：
頭部外傷データバンク project 1998 と project 2004 の比較
第 32 回日本神経外傷学会（下関）

177. 亀山元信，ほか
重症頭部外傷に地域差はあるか？〜日本頭部外傷データバンクと
宮城頭部外傷研究会多施設共同登録調査の比較〜
第 32 回日本神経外傷学会（下関）

178. 前田　剛，ほか
重傷頭部外傷に対する減圧術： Contusion necrotomy の概念と手術手技
第 32 回日本神経外傷学会（下関）

179. 三木　保，ほか
頭部外傷データバンク project 2004 における小児重症頭部外傷例の検討
〜特に予後不良因子について〜
第 32 回日本神経外傷学会（下関）

180. 中村　弘，ほか

成人急性硬膜下血腫に対する穿頭血腫除去手術の適応と転帰：
頭部外傷データバンクプロジェクト 1998，2004 登録データによる分析

第 32 回日本神経外傷学会（下関）

181. 奥野憲司，ほか

頭部外傷データバンクにおける飲酒頭部外傷患者の検討
(プロジェクト 1998 と 2004 の比較)

第 32 回日本神経外傷学会（下関）

182. 小野純一，ほか

重症頭部外傷における病態，画像所見および転帰の最近の動向：
頭部外傷データバンクの分析結果と考察

第 32 回日本神経外傷学会（下関）

183. 高里良男，ほか

頭部外傷データバンク 2004 における手術治療（タイミングと手術方法）の分析

第 32 回日本神経外傷学会（下関）

184. 卯津羅雅彦，ほか

重症頭部外傷における搬送手段の影響：頭部外傷データバンクから

第 32 回日本神経外傷学会（下関）

185. 山本恵三，ほか

熊本県における重症頭部外傷の動向 〜過去の熊本県頭部外傷データバンクと熊本赤十字病院 2004 年度版 JNTDB 登録症例の比較〜

第 32 回日本神経外傷学会（下関）

186. 横堀将司，ほか

多発外傷合併重症頭部外傷における治療成績の変遷
〜 JNTDB Project 1998 及び Project 2004 11 登録症例からの検討〜

第 32 回日本神経外傷学会（下関）

187. 小野純一，ほか

頭部外傷診療・研究の現状と将来展望：データバンクとガイドライン

第 75 回富山脳神経外科医会（富山）

188. 三宅康史，ほか

重症頭部外傷データバンク（Project 2004）に基づく多発外傷例の検討と実際の治療戦略

第 23 回日本外傷学会（大阪）

189. 卯津羅雅彦，ほか

重症頭部外傷におけるシートベルトの影響：頭部外傷データバンクから

第 45 回日本交通科学協議会（東京）

190. 河井信行，ほか

重症頭部外傷に対する低体温療法，積極的平温療法の役割
―頭部外傷データバンクにおける検討―

第 68 回日本脳神経外科学会総会（東京）

191. 前田　剛，ほか

重傷脳挫傷に対する contusion necrotomy ：手術適応・手技

第 68 回日本脳神経外科学会総会（東京）

192. 宮田昭宏，ほか

当センターにおける重症頭部外傷の年次変化

第 68 回日本脳神経外科学会総会（東京）

193. 榊原毅彦，ほか

積極的脳平温療法の有用性 ―脳低温療法に代わる体温管理―

第 68 回日本脳神経外科学会総会（東京）

194. 卯津羅雅彦，ほか

重症頭部外傷における搬送時間の影響：頭部外傷データバンクから

第 68 回日本脳神経外科学会総会（東京）

195. 柳下美登里，ほか

日本頭部外傷データバンク Project 2004 における頭蓋底骨折の分析

第 68 回日本脳神経外科学会総会（東京）

196. 横堀将司，ほか

JATEC 時代における多発外傷合併重症頭部外傷治療成績の変遷
―日本頭部外傷データバンク登録症例からの検討―

第 37 回日本救急医学会総会（盛岡）

197. 小野純一

頭部外傷の疫学と日本頭部外傷データバンク：重症頭部外傷の最近の動向

第 13 回熊本頭部外傷研究会（熊本）

【2010 年】

198. Maeda T, et al

Evaluation of surgical treatment for cerebral contusion in 198 patients registered in the Japan Neurotrauma Data Bank

2nd International Congress of Asia Oceania Neurotrauma Society（Tokyo）

199. Ogawa T, et al

Brain trauma date-bank system in Japan

2nd International Congress of Asia Oceania Neurotrauma Society（Tokyo）

200. Uzura M, et al

Analysis of poor prognostic factors in severe head injured patients based on the Japan Neurotrauma Data Bank

2nd International Congress of Asia Oceania Neurotrauma Society（Tokyo）

201. Shigemori M

Lessons learned from neurotrauma projects in Japan;
Japan Neurotrauma Data Bank

17th Korean Neurotraumatology Society Annual Meeting（Seoul）

202. 高里良男，ほか

重症頭部外傷の手術治療と管理

第 15 回日本脳神経外科救急学会（東京）

203. 藤川　厚，ほか

JNTDB における高齢者重症頭部外傷の動向：
プロジェクト 1998 とプロジェクト 2004 の比較

第 33 回日本脳神経外傷学会（東京）

204. 前田　剛，ほか

脳挫傷に対する手術適応とタイミング

第 33 回日本脳神経外傷学会（東京）

205. 中村　弘，ほか

成人急性硬膜下血腫に対する外科的治療法の施設による違い：
頭部外傷データバンクプロジェクト 1998，2004 登録データによる分析

第 33 回日本脳神経外傷学会（東京）

206. 奥野憲司，ほか

頭部外傷データバンクにおける非交通事故例における飲酒の有無の影響
（プロジェクト 1998 と 2004 の比較）

第 33 回日本脳神経外傷学会（東京）

207. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンク検討委員会報告

第 33 回日本脳神経外傷学会（東京）

208. 榊原毅彦，ほか

重症頭部外傷における積極的脳平温療法の有用性
―脳低温療法に変わる体温管理

第 33 回日本脳神経外傷学会（東京）

209. 卯津羅雅彦，ほか

頭部外傷データバンクにおける GCS スコア 9 点以上から 2 点以上低下例での検討

第 24 回日本外傷学会（幕張）

210. 榊原毅彦，ほか

重症脳損傷に対する積極的脳平温療法の有用性
―脳低温療法に変わる体温管理

第 13 回日本脳低温療法学会（大阪）

論　文

【1998年】

1. 小川武希，ほか
頭部外傷データバンク設立に向けて ―8施設での施行―
神経外傷 21: 125-129, 1998

【1999年】

2. 川又達朗，ほか
頭部外傷データバンク 1998年上半期報告
―多地域9施設における重症頭部外傷症例の分析―
神経外傷 22: 73-79, 1999

【2001年】

3. 亀山元信，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―び漫性脳損傷および両者合併例の解析―
神経外傷 24: 41-44, 2001

4. 豊田　泉，ほか
交通事故による重症頭部外傷の検討 ―頭部外傷データバンクより―
日本交通科学協議会誌 1: 63-68, 2001

5. 小野純一
わが国における頭部外傷の疫学
救急医学 25: 1527-1531, 2001

【2002年】

6. 林　宗貴，ほか
多発外傷と非多発外傷（頭部単独外傷）の比較
および preventable trauma death
神経外傷 25: 210-215, 2002

7. 亀山元信，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の年齢分布
神経外傷 25: 153-158, 2002

8. 川又達朗，ほか
Talk and deteriorate 86 症例の検討：臨床像，治療，転帰について
神経外傷 25: 205-209, 2002

9. 中村　弘
急性硬膜下血種を伴う重症脳外傷の病態
神経外傷 25: 182-188, 2002

10. 中村　弘
成人急性硬膜下血種：手術例の転帰に深く関係する因子は何か
神経外傷 25: 189-199, 2002

11. 小川武希，ほか
頭部外傷データバンク検討委員会報告 ―総括―
神経外傷 25: 117-133, 2002

12. 小川武希
頭部外傷データバンク検討委員会報告 ―最終章―
神経外傷 25: 216, 2002

13. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクに登録された重症頭部外傷例の検討
―交通事故重症例の分析―
神経外傷 25: 134-139, 2002

14. 高里良男，ほか
重症頭部外傷の予後 ―転帰不良例を中心に―
神経外傷 25: 147-152, 2002

15. 高木修一，ほか
重症頭部外傷に地域特性があるか ―日本神経外傷学会頭部外傷データバンクと熊本県頭部外傷データバンクの比較―
神経外傷 25: 163-171, 2002

16. 田中幸太郎，ほか
重症頭部・脳外傷の予後を悪くする年齢因子の評価
神経外傷 25: 159-162, 2002

17. 徳富孝志，ほか
重症頭部外傷に及ぼす早期の呼吸循環ならびにその他の身体生理学的異常の評価
神経外傷 25: 140-146, 2002

18. 卯津羅雅彦，ほか
びまん性脳損傷の俯瞰的解析
神経外傷 25: 200-204, 2002

19. 山木垂水，ほか
重症頭部外傷の治療の現状：手術群・非手術群比較の観点から
神経外傷 25: 172-181, 2002

【2003年】

20. 土肥謙二，ほか
頭部外傷の疫学－データバンクが示すこと
Journal of Clinical Rehabilitation 12: 674-679, 2003

【2004年】

21. 小川武希
わが国における頭部外傷データバンクの試み
脳外誌 13: 73-79, 2004

22. 山木垂水，ほか
重症頭部外傷の治療成績：頭部外傷データバンク検討委員会報告書を基に
脳外誌 13: 80-88, 2004

23. 平川公義，ほか
交通外傷による高次脳機能障害
―なぜ社会復帰できないか実態調査の難しさ―
日本交通科学協議会誌 4: 66-73, 2004

24. 小野純一
神経外傷キーワード，社会医学的側面から，頭部外傷データバンク
Clinical Neuroscience 22: 512-522, 2004

25. 小野純一
頭部外傷データバンク，特集：看護に生かせる神経外傷のキーポイント
ブレインナーシング 20:30-34, 2004

26. 川又達朗，ほか
脳挫傷に対する減圧手術の効果：
頭部外傷データバンク登録182症例の検討
神経外傷 27: 161-164, 2004

27. 小川武希，ほか
頭部外傷データバンク委員会：1998－2001最終報告
神経外傷 27: 149-154, 2004

28. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―交通事故の受傷原因と頭蓋・頭蓋内損傷の関係―
神経外傷 27: 155-160, 2004

29. 徳富孝志，ほか
外傷性くも膜下出血の臨床的意義 ―JNTDB からの報告―
神経外傷 27: 161-164, 2004

30. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクに登録された重症頭部外傷例の検討
―交通事故重症例の疫学的・臨床的特徴―
Neurosurg Emerg 9: 103-108, 2004

31. 奥野憲司，ほか
専門医に求められる最新の知識　頭部外傷　本邦における頭部外傷の特徴
頭部外傷データバンクを試みて
脳神経外科速報 14: 678-684, 2004

【2005 年】

32. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭蓋外損傷および転帰の分析
神経外傷 28: 6-10, 2005

33. 徳富孝志，ほか
頭部外傷データバンク登録症例における CT 分類からの検討
神経外傷 28: 1-5, 2005

34. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷の検討
―臨床的特徴，画像所見および転帰の年齢別分析―
Neurosurg Emerg 10: 160-167, 2005

【2006 年】

35. Nakamura N, et al
Final Report of the Japan Neurotrauma Data Bank Project 1998-2001:
1002 Cases of Traumatic Brain Injury
Neurol Med Chir 46: 567-574, 2006

36. Shigemori M

Recent Projects on Neurotrauma in Japan

Minimally Invasive Neurosurgery and Multidisciplinary Neurotraumatology
T. Kanno (Editor in Chief), Springer, 268-273, 2006

37. Takasato Y, et al

Multidisplinary treatment including brain hypothermia for severe brain injury

Minimally Invasive Neurosurgery and Multidisciplinary Neurotraumatology
T. Kanno (Editor in Chief), Springer, 343-349, 2006

38. 小野純一，ほか

重症頭部外傷に対する急性期治療の現状：
頭部外傷データバンクの分析から

Neurosurg Emerg 11: 133-140, 2006

39. 卯津羅雅彦，ほか

頭部外傷の疫学：データバンク

救急医学 30: 1727-1729, 2006

40. 小野純一，ほか

交通事故で受傷した頭部外傷における飲酒の影響
―頭部外傷データバンクの検討から―

神経外傷 29: 1-8, 2006

41. 高里良男，ほか

頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷に対する
脳低体温療法の役割分析

神経外傷 29: 9-14, 2006

42. 川又達朗，ほか

重症頭部外傷の治療 ―過去 10 年間で何が変ったか―

脳外誌 15: 491-497, 2006

43. 小川武希，ほか

頭部外傷ガイドラインの検証

脳外誌 15: 498-504, 2006

【2007年】

44. Kawamata T, et al
CHAPTER 16: Cerebral contusion: a role model for lesion progression
Progress in Brain Research, Weber & Mass (Eds.), Vol.161, 2007

45. 小野純一，ほか
重症頭部外傷治療の現状：
頭部外傷データバンクにおけるProject 2004の分析から
神経外傷 30: 1-6, 2007

46. 沢内　聡，ほか
頭部外傷データバンクにおける急性硬膜下血腫526例の検討
―局所性およびびまん性脳損傷としての病態生理―
脳外 35: 43-51, 2007

47. 沢内　聡，ほか
頭部外傷データバンクにおける急性硬膜下血腫と
びまん性脳損傷の受傷機転と病態の比較，検討
脳外 35: 665-671, 2007

48. 沢内　聡，ほか
交通事故による急性硬膜下血腫　頭部外傷データバンク1002例の検討
日本交通科学協議会誌 7: 24-28, 2007

【2008年】

49. Tokutomi T, et al
Age-associated increases in poor outcomes after traumatic brain injury:
A report from the Japan Neurotrauma Data Bank
J Neurotrauma 25: 1407-1414, 2008

50. 小野純一，ほか
頭部外傷データバンクにおける小児頭部外傷の分析
小児の脳神経 33: 390-395, 2008

51. 土肥謙二，ほか

頭部外傷データバンク【プロジェクト 2004】における
自転車事故に関連した重症頭部外傷例の検討

神経外傷 31: 146-157, 2008

52. 藤澤博亮，ほか

重症頭部外傷における生理学的パラメーターの評価（頭部外傷データバンクプロジェクト 2004 より）：プロジェクト 1998 との比較

神経外傷 31: 99-106, 2008

53. 亀山元信，ほか

重症頭部外傷に地域差はあるか？：日本頭部外傷データバンクと
宮城頭部外傷研究会多施設共同登録調査の比較

神経外傷 31: 131-138, 2008

54. 河井信行，ほか

重症頭部外傷に対する低体温療法，積極的平温療法の役割：
頭部外傷データバンクにおける検討

神経外傷 31: 91-98, 2008

55. 川又達朗，ほか

頭部外傷データバンク重症頭部外傷の治療は変わったか：
頭部外傷データバンクの検討

神経外傷 31: 158-173, 2008

56. 三木　保，ほか

頭部外傷データバンクプロジェクト 2004 における小児重症頭部外傷例の検討：特に予後不良因子について

神経外傷 31: 113-121, 2008

57. 宮田昭宏，ほか

JNTDB における急性硬膜下血腫の臨床的特徴と治療・転帰：
プロジェクト 1998 とプロジェクト 2004 の比較から

神経外傷 31: 181-192, 2008

58. 小野純一，ほか

交通事故で受傷した重症頭部外傷の最近の動向：
頭部外傷データバンクの検討から

神経外傷 31: 122-130, 2008

59. 榊原毅彦，ほか

重症頭部外傷患者に対する体温管理と外科的治療の併用例の検討：
頭部外傷データバンク（プロジェクト 2004）における検討

神経外傷 31: 193-196, 2008

60. 高里良男，ほか

頭部外傷データバンク 2004 における手術治療の分析

神経外傷 31: 197-202, 2008

61. 徳富孝志，ほか

早期呼吸循環異常と頭蓋内診断：プロジェクト 1998 との比較

神経外傷 31: 85-90, 2008

62. 卯津羅雅彦，ほか

転帰からみた重症頭部外傷の現状：頭部外傷データバンクから

神経外傷 31: 107-112, 2008

63. 柳下美登里，ほか

1998 年より頭部外傷データバンクに参加している施設と 2004 年より参加した施設間におけるプロジェクト 2004 データの比較検討

神経外傷 31: 139-145, 2008

64. 横堀將司，ほか

高齢者重症頭部外傷に対する治療の現状：
日本頭部外傷データバンクプロジェクト 2004 の分析から

神経外傷 31: 174-180, 2008

65. 卯津羅雅彦，ほか

交通事故と非交通事故の比較からみた重症頭部外傷の分析
―頭部外傷データバンクプロジェクト 2004 から

日本交通科学協議会誌 8: 46-51, 2008

【2009年】

66. 藤川　厚，ほか
重症頭部外傷における受傷原因別病態・転帰の変化
―頭部外傷データバンク project 1998 と project 2004 との比較―
Neurosurg Emerg 14: 36-41, 2009

67. 小野純一，ほか
重症頭部外傷治療の最近の動向：頭部外傷データバンクの分析から
Neurosurg Emerg 14: 30-35, 2009

68. 河井信行，ほか
重症頭部外傷患者における頭蓋内圧モニタリングの現状
―頭部外傷データバンク Project 2004 から―
CODMAN News 115: 2009

【2010年】

69. 小川武希，ほか
脳外傷の現状　頭部外傷データバンクを中心に
Brain and Nerve 62: 13-24, 2010

頭部外傷データバンク委員会の構成およびメンバー

（五十音順，敬称略）

第1回 委員会 1996/5/23

委 員 長： 中村 紀夫

委　　員： 有賀　徹，小川 武希，小沼 武英，片山 容一，重森　稔，
平川 公義，丸林　徹，山浦　晶，神田橋宗行

幹事委員： 小川 武希，小野 純一，川又 達朗

パイロットスタディー 1997, 4-6*

企画担当： 中村 紀夫

参加施設： 熊本赤十字病院，久留米大学附属病院，公立昭和病院，済生会滋賀県病院，聖マリアンナ医科大学附属病院，仙台市立病院，千葉県救急医療センター，日本大学板橋病院（以上８施設）

委　　員： 有賀　徹，上田　聖，小川 武希，小沼 武英，小野 純一，
片山 容一，川又 達朗，坂本 哲也，重森　稔，関野 宏明，
中村 紀夫，平川 公義，藤本 正人，丸林　徹，山浦　晶，
山岡 龍平，山木 垂水，山口由太郎，神田橋宗行

幹事委員： 小川 武希，小野 純一，川又 達朗

プロジェクト 1998 **

委 員 長： 重森　　稔，山浦　　晶

企画担当： 中村　紀夫

参加施設： 熊本赤十字病院，久留米大学，公立昭和病院，国立病院東京災害医療センター，済生会滋賀県病院，昭和大学，聖マリアンナ医科大学，仙台市立病院，千葉県救急医療センター，日本大学（以上 10 施設）

委　　員： 有賀　　徹，卯津羅雅彦，岡田　保誠，小川　武希，小沼　武英，小野　純一，片山　容一，亀山　元信，川又　達朗，坂本　哲也，重森　　稔，関野　宏明，高里　良男，徳富　孝志，豊田　　泉，中村　紀夫，中村　　弘，早川　隆宣，平川　公義，藤本　正人，丸林　　徹，村井　尚之，森　　真，山浦　　晶，山木　垂水

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ： 岡　　明子，神田橋宗行，北村　博文，小峰　光男，花岡　利弘，松尾　有祐，横溝　宏昌

幹事委員： 小川　武希，小野　純一，川又　達朗，坂本　哲也，徳富　孝志

プロジェクト 2004 ***

委 員 長： 重森　　稔，山浦　　晶

企画委員： 卯津羅雅彦，小川　武希，関野　宏明，中村　紀夫，平川　公義，丸林　　徹，村井　尚之，山浦　　晶

参加施設： 香川大学，京都九条病院，熊本赤十字病院，久留米大学，国立病院機構災害医療センター，済生会滋賀県病院，昭和大学，聖マリアンナ医科大学，仙台市立病院，千葉県救急医療センター，千葉県循環

器病センター，帝京大学，東海大学，東京医科大学，東京慈恵会医科大学附属柏病院，日本医科大学，日本大学，武蔵野赤十字病院，山口大学（以上 19 施設）

委　　員：渥美　生弘，有賀　　徹，石坂　秀夫，大橋　一善，小沼　武英，小野　純一，片山　容一，亀山　元信，河井　信行，川又　達朗，小泉　博靖，小山　　勉，榊原　毅彦，坂本　哲也，沢内　　聡，重森　　稔，末廣　栄一，鈴木　倫保，高里　良男，寺本　　明，徳富　孝志，土肥　謙二，富田　博樹，長尾　省吾，中林　基明，中村　　弘，橋本　卓雄，早川　隆宣，原岡　　嚢，日野　明彦，平田　雅文，藤澤　博亮，古屋　　優，松前　光紀，三浦　正毅，三木　　保，宮田　昭宏，村上　成之，山木　垂水，横田　裕行

幹事委員：小川　武希，小野　純一，川又　達朗，坂本　哲也，徳富　孝志

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：井坂　裕志，大塚　光造，岡　　明子，小野古志郎，菅沼　　篤，村越　直春，森　　真，横溝　宏昌

〔引用文献〕

* 小川武希，有賀徹，上田聖，ほか：頭部外傷データバンクシステム設立に向けて ―8 施設での施行―．神経外傷 21: 125-129, 1998.

** 小川武希，川又達朗，坂本哲也，ほか：頭部外傷データバンク検討委員会報告 ―総括―．神経外傷 25: 117-133, 2002.

*** 頭部外傷データバンク検討委員会報告書【プロジェクト 2004】．神経外傷 31（特別号），2008.

編集後記

日本頭部外傷データバンク（Japan Neurotrauma Data Bank: JNTDB）は，東京慈恵会医科大学名誉教授の中村紀夫先生のご発案で1996年に設立され，委員会が組織されました。その後多くの先生方の熱意およびご尽力により，学会発表210題，論文発表69編という膨大な業績を作り上げ，このたび業績目録を作成する運びとなりました。

JNTDBを開始するにあたり，まず初めに行いましたことは研究プロトコール（データシート）の作成であります。その基礎となりましたのは1985年にLawrence F. Marshall教授よりいただいたNational Traumatic Coma Data Bankのプロトコールと熊本赤十字病院の丸林　徹先生から拝借した熊本頭部外傷データバンクのデータシートであります。これらを基に中村紀夫先生を中心に，小川武希先生，徳富孝志先生（久留米大学脳神経外科），川又達朗先生（日本大学脳神経外科），坂本哲也先生（公立昭和病院救急科，当時）と小野（千葉大学脳神経外科，当時）で何度も会議を開き，改良に改良を重ねて，何とか初回のデータシート（388項目）を作成しました。

研究はパイロット研究を初めとして，プロジェクト1998，プロジェクト2004と進み，現在はプロジェクト2009が進行中であります。この間研究が進むにつれてプロトコール，入力方法等の問題点が明らかになり，逐次改変を重ねて今日に至っています。またJNTDBのデータがわが国の現状を反映しているか否かを検証するために，2005年には全国の脳神経外科A/C項訓練施設を対象として，One Week Studyを行いました。さらに2011年にはその後のわが国の現状を把握するために，再度One Week Study 2011を計画しています。

またJNTDB検討委員会は，2000年に当時の第23回本学会会長でありました福島県立医科大学・児玉南海雄教授のご尽力で，日本神経外傷学会（当時）の正式な下部組織として位置づけられ，このことは本委員会が活動する上で大変有意義なことでありました。

JNTDBが発足して早14年が経過しましたが，このデータバンクの研究は長く続けることによって，研究の意義が評価されるものと思われます。中村紀夫先生，代表委員および委員長を務められた山浦　晶先生，重森　稔先生のご意志を引き継いで研究を末永く続けていくことがわれわれの責務と考えております。

最後に，頭部外傷データバンクの業績目録を作成するにあたり，お力添えをいただきましたJNTDB委員の先生方ならびに本学会の機関誌編集委員長であります片山容一教授（日本大学脳神経外科）に深謝申し上げます。

平成22年12月20日

日本頭部外傷データバンク検討委員会
委員長：小野　純一（千葉県循環器病センター脳神経外科）
事務局：小川　武希（東京慈恵会医科大学救急医学）

日本頭部外傷データバンク業績目録

NEUROTRAUMATOLOGY
Vol.33 Supplement 2010

COPYRIGHT© 2010 by The Japan Society of Neurotraumatology